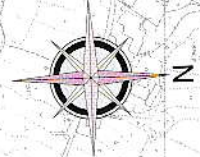
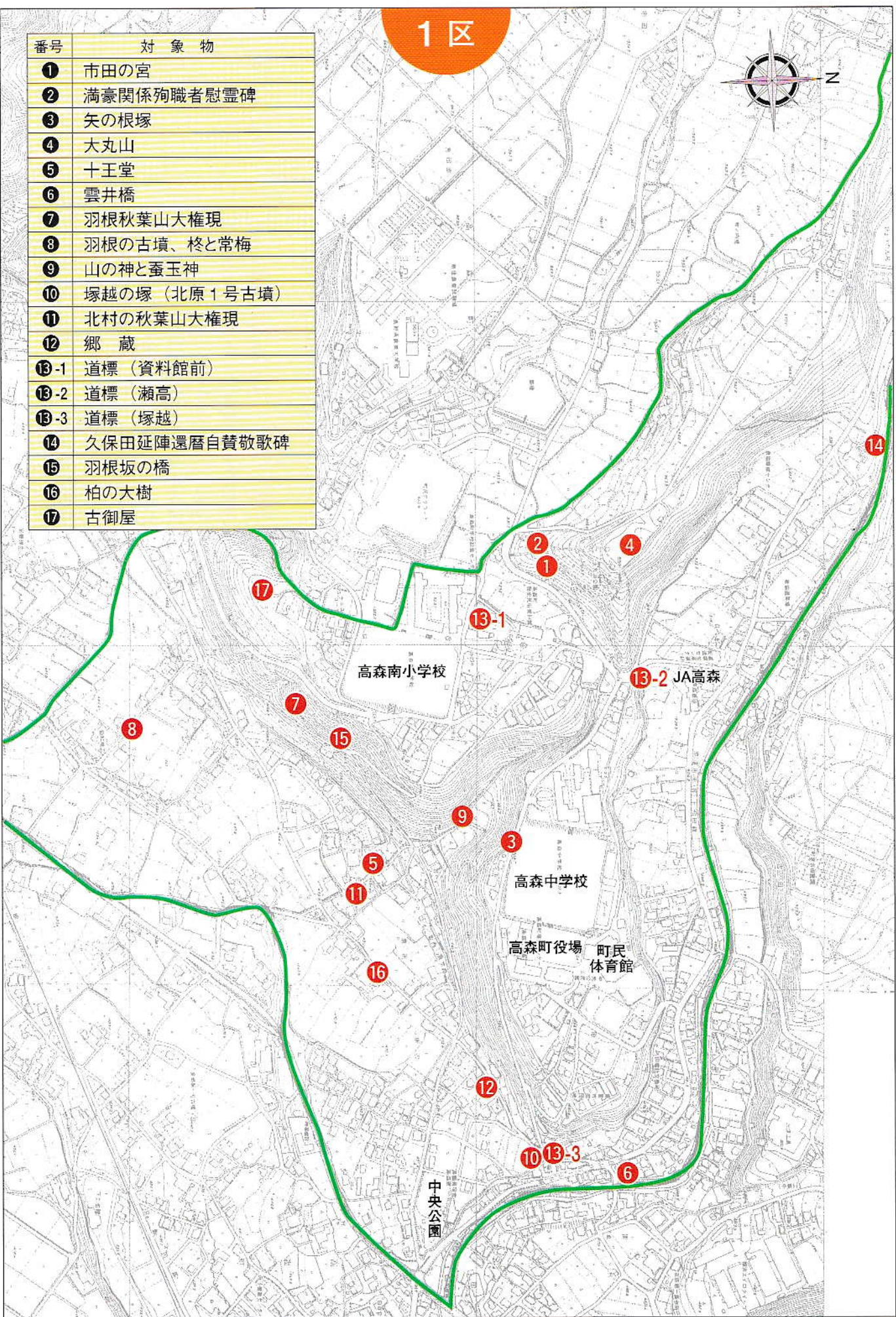


1区



番号	対象物
①	市田の宮
②	満豪関係殉職者慰霊碑
③	矢の根塚
④	大丸山
⑤	十王堂
⑥	雲井橋
⑦	羽根秋葉山大権現
⑧	羽根の古墳、柁と常梅
⑨	山の神と蚕玉神
⑩	塚越の塚（北原1号古墳）
⑪	北村の秋葉山大権現
⑫	郷 蔵
⑬-1	道標（資料館前）
⑬-2	道標（瀬高）
⑬-3	道標（塚越）
⑭	久保田延陣還暦自賛歌碑
⑮	羽根坂の橋
⑯	柏の大樹
⑰	古御屋



① 市田の宮 いちだのみや

昭和31年(1957)創建
〔所在地〕大丸山の南斜面

昭和12年(1937)に始まった日中戦争第二次世界大戦までの犠牲者276名を祀る。春秋の年2回の祭りをしてきたが、45年後本殿が傷んだため平成14年(2002)4月27日『戦没者慰霊之碑』と刻んだ石碑に祀り替えた。

文字 長野県民族会長 西村 正氏
施工者 駒ヶ根市 矢野工業産
施主 山本脩平(高森町市田地区遺族会長)、
遺族一同
委員8名、監事2名、遺族会理事会
名簿 地区毎にある



戦没者慰霊碑



市田の宮

② 高森町満蒙関係殉難者慰霊碑 まんもうかんけいじゆんなんしゃいれいひ

昭和56年(1981)4月建立
〔所在地〕大丸山南斜面 市田の宮の西

満蒙の天地に民族協和による榮土建設という日本民族の理想と、国土防衛という使命達成のために推し進められた重大国策により、600余名が満蒙に渡り、昭和20年(1945)の敗戦により血と汗の結晶は一瞬にしてついで去った。町中で実に270余名の未だ還らざる遺骨のある中で35年が過ぎた。町内全戸及町外関係者からの浄財により、慰霊碑を建て殉難者の御霊を合祀し、安らかに眠られんことと、再び繰り返さないことを誓ってこの碑を建立する。と碑陰にある。

昭和56年(1981)4月 高森町満蒙関係殉難者慰霊碑建設委員長 林 小六
遺族及生還者一同
長野県知事 吉村午良 書
石工 山岸貞夫 上原大次 松尾勝司



慰霊碑

③ 矢の根塚

〔二区〕

〔所在地〕 中学校前の駐車場東端



矢の根塚の祠

現在高森中学校の建っている一帯は昔は山だった。

松喰い虫のため伐られた松の根っこの南側に、小さい祠がある。明治（1868〜1912）の中頃この山を開墾して桑畑とした。その時、このあたり一面から矢の根石や石器等が出てきたり、古代人の住居跡も出てきた。そこでここを矢の根塚というようになり、倉澤安市さん方では先代よりここに祠を建て「公分明神」を祀ってきたそうである。

公分明神という神は、神之峯城主の知久様と関係のある神様で、二つばかりのお話が伝承されている。



矢の根塚の周辺風景

④ 大丸山の土塁・堀切遺構・狼煙台

〔二区〕

〔所在地〕 大丸山

松岡城の本城と支城（吉田）との中間にあつて、堀切の奥（約30m）東に、監視所と狼煙台があつたのではなからうか、といわれている。

大丸山は町のほぼ中央に位置しており、都市計画の一環として、事業費一億二千五百万円をかけ、昭和五十三年（1978）に着工し、五年ほどかけて公園を造成した。

芝生の西端の凹地は中世の空堀ではないかと言われるが、今後の調査がまたれる。



大丸山狼煙台跡地



大丸山の遠景

⑤ 十王堂

「二区」

【所在地】
唐沢の北沢幸保氏宅前道路ぎわ

十王とは、亡くなった人が生前にどんな罪を犯したかを冥土で裁く、次の十人の王である。

秦広王（7日目）・初江王（27日目）・宗帝王（37日目）・
伍官王（47日目）・閻魔王（57日目）・変成王（67日目）・
太山王（77日目）・平等王（百日目）・都市王（一年目）・
五道輪廻王（三年目）と、阿弥陀様（情けをかける）、三途の川を渡ってきた亡者の着物を脱がす脱衣婆、その衣類を天秤に掛けて調べる懸衣翁、人頭杖（男女の頭のついている杖、男は見る、女は嗅ぐ）、鏡に写して観る浄玻璃の鏡がある。

その南に宝永4年（1707）9月・天保13年（1842）6月・天明3年（1783）2月、他5基の石仏がある。
※三区の安養寺の十王様を参照する。



十王堂の十王様

堂の脇の石仏八体



十王堂の遠景

⑥ 雲井橋

「二区」

【所在地】中塚市郎氏宅の東側にある橋

■名付けの由来

昭和3年（1928）頃、木の橋から今のコンクリートの橋になった。
明治4年（1871）に木橋を広げて架け替えたとき、清東の吉川権九郎氏が多大な木材を出してくれた。

粋な人で、飯田の二本松に通い「雲井」と言う馴染みの女がいて、橋代のお礼にこの女の名前をつけてくれ、と言うことでこの橋の名が付いたという。



雲井橋



雲井橋の遠景

7 羽根の秋葉大権現の塔 あきば だいごんげんとう 「二区」

享和2年(1802)正月吉日建立

〔所在地〕道路拡張工事で三度の移動

- ①南信給食センター北側に建立
- ②新井氏宅入り口へ
- ③羽根坂へ

町史編纂の折には銘文がわからなかったが、羽根坂線に移動した際に、牛牧の秋葉塔より30年古く、町内で一番古いことが判明した。静岡県の秋葉山に火伏せの神である「火之迦具土神」を祭る秋葉神社があり、同じ山に秋葉寺があった。ある時、この寺の住職であ



羽根秋葉塔



秋葉塔の近景

る「三尺坊」が天狗となって空を飛び、火を鎮めたという噂が広まり、両者が一つになって秋葉大権現となり、全国に信仰が広まる。ところが戦国時代になると、「火之迦具土神」

は剣難を防ぐ神であると信じ、また寺には勝軍地蔵が祭られているという噂から武将達は戦勝を祈願するなど、信仰が拡大していた。

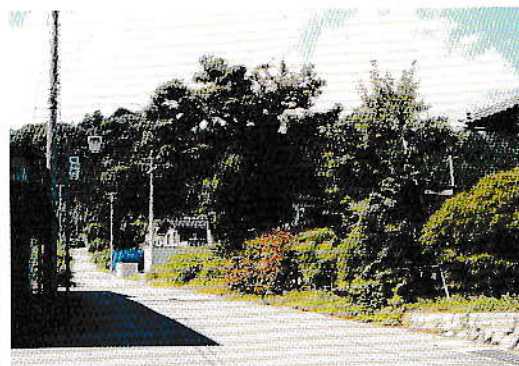
戦い終わって江戸時代(1603~1867)に入ると、生命・財産の保護に関心が高まり、木造住宅の集落を形成している江戸から全国に信仰が拡大することになる。地方ならではの講を作り、代参などをしていたが参拝に行き交う人が絶え間なくいつの間にか秋葉道(街道)と名付けられた。やがて塔を建て、祈願など信仰を深めて来たのであろうと思われる。

秋葉大権現に関係ある分社等は2万数千社とも言われる。町内には塔は併記、並立単独碑等35基有余存在する。

8 羽根の古墳と柎・常梅 こふん ひいらぎ とここうめ 「二区」

〔所在地〕中村忠敬氏宅内

推定直径直径16mの円形古墳。その中央に柎が植えてあり古木である。常梅は樹齢1000年余り、8月中旬まで落果しない。昭和20年(1945)代まで葉として収穫していた。特に苦味がきつい。開花は12月~2月、花の香りが高い梅である。



中村氏宅の遠景



古墳にある柎

9 やま かみ こ だま かみ
山の神・蚕玉神（耕地の祭り） 「二区」

【所在地】唐沢洞 北澤理勝氏宅西



山の神・蚕玉神の石段

北澤理勝氏宅上の唐沢洞の石段の上に祠がある。日露戦争以来休んでいたが、昭和7年（1932）唐沢の災害復旧工事完成祝いを機に昭和8年（1933）52軒の北村耕地全家庭が参加して祭りを再会している。現在は27軒である。

石段左側に「明和元年12月（1754）の刻みがある。」

山の神石段の刻字



大山祇神・蚕玉神



遠景

10 つか こし
塚越の塚（北原一号古墳） 「二区」

【所在地】北島剛氏家の前

南側に石室の入口と思われる2本の石が1mほどの間隔で斜めに立っている。中塚市郎氏は子どもの頃石室の中へ入って遊んだと言う。故北澤金八氏も生前に同じ話をされていた。松の大木が3本と柵山桜等が鬱蒼としていて道を通る人は恐れていたと言う。

塚上には北澤家の氏神と天満宮が祀られている。町史に埴輪と直刀が出たと記されている。

北原二号、三号古墳は積善会館の付近にある。



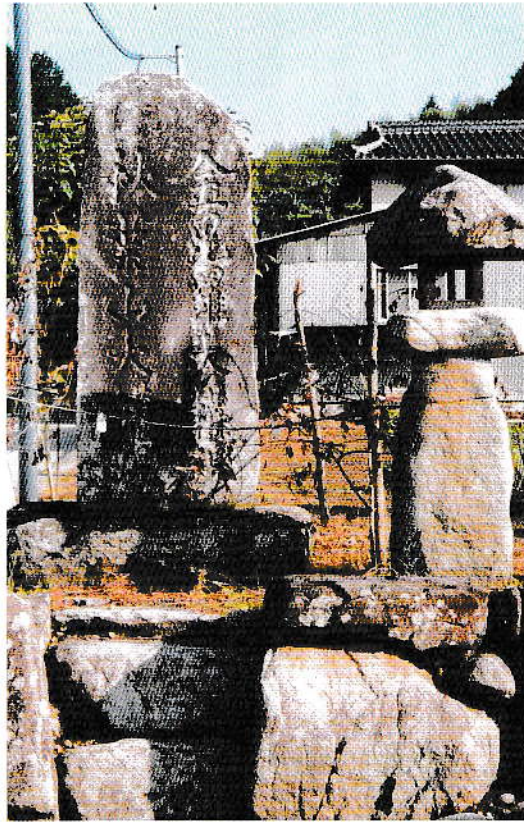
塚越の塚（北原一号古墳）



古墳の遠景

北村の あきはさんだいごんげん・こんびらだいごんげん
11 秋葉山大権現・金毘羅大権現 二区

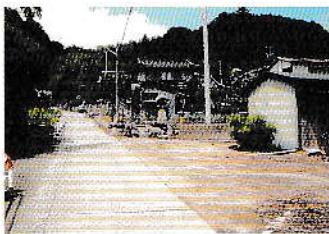
文政11年(1828)
 【所在地】上沼啓孝氏宅裏、河田豊子氏宅西



秋葉大権現・金毘羅大権現



同じ塔としては町内では大きい部類にはいる。
 右側「文政十一歳(1828)次戊子四月吉辰」
 左側「管家唯一秘伝
 大師正統二十九世知積第一座道本謹書印」



遠景

郷蔵
12 郷蔵 二区

明治35年(1902)移築
 【所在地】北澤善二郎氏宅裏(五間、四間半、高さ三間半) ※間(六尺)・尺(三十三cm)

元は三区荒神様の西北約100mの所にあつて、江戸時代後期から村の備蓄米、租税米を収めた蔵(納所)であった。米千俵詰め込めたという。
 明治35年(1902)に北澤善四郎(当主より三代前)が払い下げてもらい(買い)移築したものである。
 現在は二階に改めて使用しているが空間に柱はない。



郷蔵



郷蔵の遠景

13 道標 (資料館前) (瀬高) (塚越) 「二区」

【所在地】歴史民俗資料館前、瀬高宅裏、塚越



資料館前

歴史民俗資料館入口、給食センター前
北せんくわうし (善光寺) 道
東ふなと (舟渡) 道
南さくわうし (座光寺) 道



瀬高氏宅裏

北善光寺道
東舟渡道
南座光寺道



塚越の塚北 木下正夫氏宅北

右さかうし道 (座光寺)
左あきは道 (秋葉)



14 久保田延陣還曆自賛歌碑 「二区」

文政10年(1827)建立

【所在地】久保田昌幸氏宅裏氏神の右

『やれそれと思ふ間もなく六十こえ
弥がふところは今みそじほど』

当主昌幸氏より四代前のお爺さんで飯田の歌詠みの人に教わっていたらしい。一区唯一の歌碑である。

歌碑のある遠景



久保田氏還曆自賛歌碑

15 三六災の置き土産 羽根坂の橋 「二区」

昭和39年(1964) 〔所在地〕羽根坂と学校道(北村)との合流点付近

昭和36年(1961) 6月24日〜30日の豪雨は町内に多大な被害を与えた。死者9名、行方不明2名、家屋流出42戸、全半壊63戸、堤防の決壊、耕地の流失300ヘクタール、橋の流失、道の決壊等二十世紀最大の被害であった。

一区においても、大島川の決壊、唐沢洞、江戸ヶ沢の氾濫等、特に南小学校の東校庭より溢れた出た雨水が、南小より旧学校への道の流れ、一区の中央部、南部を流れ落ちたため被害は大きかった。

羽根坂の道を約10m、深さ約5mえぐってしまった。その置き土産として架けられたのが「羽根坂橋」である。



南小学校下の羽根坂橋

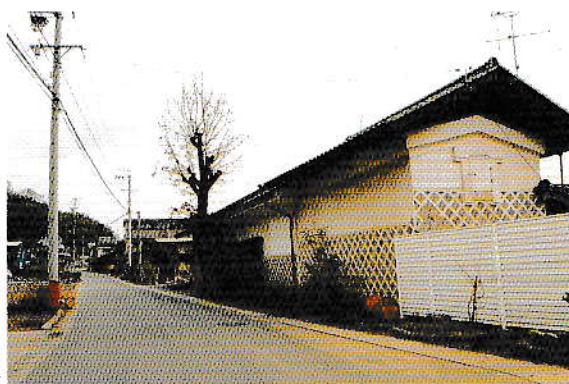
16 柏の大樹 「二区」 〔所在地〕北村の中村家の北口

樹齢約140年といわれている。樹周1:8m、高さ約14m

中村家は勇蔵忠篤、与三衛門忠孝、平九郎の三代に亙って寺子屋を開いている。寺子たちにおやつとして、特に節句等に柏の葉に餅を包んで与えたと、伝えられている。



柏の大樹



柏の大樹遠景

17 古御屋

〔二区〕

〔所在地〕高森南小学校南側、山林の中

松岡城支城の一つ、見張り所である。帯曲輪には監視兵がいたと思われる。土塁が高い。

一段下にお姫様の化粧水と言われる井戸がある。(蜂谷家の氏神境内)

城址碑建立(昭和52年(1977) 陽寿好日 光澤北澤両家建立)

現、光澤・北澤家の所有による30坪前後の氏神社用地は、もともと光澤金治氏の所有であった。以前は社背面西側の谷川までと、前面中間段境までの相当地籍を所有し、今川家、北澤家、蜂谷家の地所に隣接していた。

光澤金治氏の長男が東京において大学卒業直前の不慮の事故で急逝後、時を経て昭和39年(1964)に氏神社用地以外の大部分を高森町他に譲渡し、同時に当用地を当家から光澤一統に譲り受けた。一統の氏神がいつの時点から祀られたかは定かでないがそれより相当前のことと思われる。



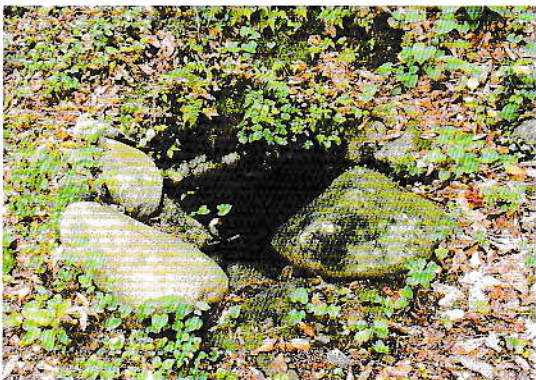
古御屋城址碑



古御屋城址碑の近景

社の隣の「史蹟古御屋城址」なる石碑建立は、当時の一統代表が話し合っ
て、そういうものを建てようかとまとまり、特に町への依存も無く、自主的
自費によって行われた。材料の石柱は、北澤理勝氏が以前からそのつもりで
準備したものが氏宅にあり、飯田市砂弘の馬場田石材店に光澤正晴氏が手配
して製作した。碑文の揮毫は光澤勝男氏が瑠璃寺の僧正と親交があつて依頼
した。建立作業は一統の老若出合つて行われた。

もう一方の東側にある「古御屋之霊」なる石碑建立の経緯は定かでない
が、その位置が従前光澤金治氏所有であったことと、建立が高森町他へ譲渡
の時より相当に前であることから、氏を中心と同様の経緯があつたのことと
思われる。以後現在まで、氏神祭の折りには欠かさず慰霊し祀っている。
(光澤金良氏調査)



古御屋城址の古井戸